



柳 葉

三重県神道青年会報 第21号

経験は最良の教師である

会長 増田 秀樹



員に任命されたのです。早や十二年に亘り、会の一役を担い、やはり神青を通じて多くのことを学び成長したように思います。

常に初心を心掛けて氏神さまの護持運営にあたり、神社庁をはじめ神青事業には積極的に参画し、斯道発展の為にと無心で働かせて戴き、いつの間にか青年神職から脱皮して、指導的立場の中堅神職の立場になろうとしています。

「成せば成る成さねば成らぬ何事も」の精神力で突き進むうちに、我が身に底知れぬ力と勇気が沸き起こり、力強い会員に支えられてきたことを忘れてはなりません。

神青活動の遂行には、神社界の尖兵として行動力のある活発な運動が要求される為、役員連帯意識を高め、献身的且つ積極的に諸活動に励むことで、会員相互の結束の輪が広くなり、一層の団結と幅広い活動を展開することができ、二ヶ年の会長任期中、私を支えて

くれた有能な役員はじめ会員の皆様に心から感謝するとともに厚く御礼申し上げる次第でございます。私の青年会時代は、この度の第六十一回神宮式年遷宮のご奉仕に尽きると言っても過言ではありません。遷宮一連の諸祭儀に携わり、啓蒙運動を通じ、二十一年に一度の貴重な経験が得られたことは誠に幸運であり生涯の思い出となりました。経験は最良の教師である

と言言葉の通り、次なる遷宮には貴重な経験を生かし、奉仕者の一人として、遷宮奉賛の啓蒙活動の中心的役割を果たす使命を改めて認識し、決意新たに心が甦ったような気持ちになりました。

一方、神青協神宮研修会では、全国の同志諸兄と神宮への神明奉仕の誠を誓い合った。更には、三重県神道青年会歴代会長会では、先輩方々により我々が果たす使命について有意義なご意見を拝聴することもできた。また、地域社会への福祉活動の一環としてのチャリティバザーにおいても、多勢の神社関係者のご協力を得て大成功を果たすことができました。

神社庁事業や神青活動を通じ、初心の頃より思い続けてきた理想

の姿に一歩近づき、神ながらの道が幾分見えてきたような気が致します。神青で歩んだ道は最善の近道であったと確信致します。また、生涯の友を得られたことは、将来への財産であり、青年時代に培った経験を生かし、更に神道誠心を磨きたいと思っております。

さて、神青会長や地域社会の為に真剣に打ち込めた要因がありました。小生は今期が四十二歳の厄年に当たり、厄を免れる為に当然氏神さまにご祈願は申し上げたが、地域社会のお役に立つことよって厄を役に変えて一生懸命世の為人の為に貢献してきたこと、また神明奉仕二十年の節目の年にもあたり、その信念のお蔭で厄が知らず知らずのうちに除かれたのであります。これ偏に神明ご加護と人のお役に立てたことによるものと確信致す次第でございます。

去る一月十七日に発生した兵庫県南部地震による阪神大震災の被災者の皆様のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災地の日も早い復興を祈念申し上げます。最後になりましたが、今後の神道青年会の発展をお祈り申し上げます。二年間の御礼の言葉と致します。

各委員会の窓

—二年間の活動を顧みて—



総務広報委員長 長内 弘昭

総務広報委員会

総務広報委員会の委員長として二年間会務を担当させて頂きました。日々多忙にもかかわらず、委員会スタッフに参集いただき、年二回の「神青通信」と年度末の会報「榊葉」を無事発行できましたことは誠に有難く、編集記事に協力戴いた増田会長を始め各会員の皆さんに対しても心から御礼申し上げます。

顧みますと、担当一年目の一昨年は、第六十一回神宮式年遷宮が斎行され、神青会員各位が一丸となって奉仕に務めた年でありました。総務広報委員会は、「榊葉」において御遷宮特集の記事を掲載して

記録保存という形をとることにしました。昭和六十年の「御樋代木奉迎祭」に始まり、「宇治橋渡始式」や残暑の中での「お白石拾い」、そして助勢奉仕など長期間にわたり神青会が行ってきた活動をピックアップしました。平成三年四月には御遷宮特別委員会も設置され、神宮神青との合同研修会において有意義な交流が持たれたことや、記念事業として「親子神宮参拝団」の開催と「タイムカプセル祈願絵馬」の頒布など、神青会が活発な活動を展開してきた内容記事を書きました。

殊に遷御当日の会長始め会員四十七名のご奉仕と奉拝の記事は、生涯忘れえぬ得難い体験を会員の感想と共に二十年後の神青会員へのメッセージとしてまとめさせて頂きました。明けて平成六年三月には「日本青協主催の神宮研修会が開催され

ました。総務広報委員会の仕事は地元で行われる全国規模の大会に「榊葉」の発行を間に合わせて参加会員に配布することでした。通例より一ヶ月早い発行ができたのは会員各位の協力と委員会スタッフの努力の賜物でありました。今年度の活動記事内容は、定例総会開催や家族会、「第十九回お宮の子供会」等を掲載してきましたが、中でも次期遷宮を考える上で、

教化研修委員会



教化研修委員長 松本 光久

また今後の神青会活動についてOB会員から意見を伺う「三重県神道青年会歴代会長会」の開催と福祉事業として行われた「チャリティバザー」の二つを大きく取り上げ、両活動共成功裡に終了したことを報告させて頂きました。二年間の総務広報委員会活動で私自身の至らぬ点をカバーし協力してくれた村田理事始めスタッフと事務局原録事に感謝致します。

私の微力なところを藤林ブロック理事、原事務局長の多大なるお助けを頂きましたことをここに深く申し上げます。

皇太子殿下御成婚、第六十一回神宮式年御遷宮、神道青年全国協議会中央研修会と祝儀の続きましたこの二年間、教化研修委員長という大役を、役員はじめ会員の皆様のご協力ご支援を賜りまして、無事責務を全う出来ましたことは、誠に有難く、心より感謝し御礼申し上げます。

また、当委員会の活動運営には、

また、神宮大麻頒布活動を通じ

て新たな啓蒙活動の在り方を模索しようとして一層活発な活動方針を見出し実践活動が展開できるような全国の神青に神宮大麻頒布促進運動の実態調査を依頼、一年半かかり冊子を発刊させて頂きました。この二年間、今までにない新し

渉外福祉委員会



渉外福祉委員長
向井敏通

平成五年四月より渉外福祉委員長として担当させて頂きました。この二年間、委員会担当八幡副

会長・福田副委員長をはじめ委員の情熱により、また役員・会員諸兄よりの暖かいご協力ご支援を賜り大過なく責任を全う出来ました。これは、誠に有難く、心から厚く御礼申し上げます。

渉外福祉委員会の活動といたしましては、渉外活動として会員相互の親睦を図る事が一番に揚げられます。新入会員歓迎会・忘年会・

いことに挑戦して参りました。伝統は伝統として受け継ぎ、新しいことにいつも挑戦する神道青年会であってほしいと思います。二年間、本当に有り難うございました。皆様のご活躍をお祈り致します。

新年会の開催を行いました。県内南北に長い地理的な不便もありましたが、会員多数の参加を戴きましたが、相互の心の繋がりを深め、大きな和を広められたと確信致しております。また家族会は平成五年度は、多気町の五桂池にてバーベキューを、平成六年度は美杉村フアイアバレイにてのプールを実施致しました。両日共に天候に恵まれ、特に子供達には、良き思い出となったと思います。

福祉活動として、地域社会への貢献を目標にしていかねばいけません。去る北海道南西沖地震の際は、会員の協力によりまして義援金を北海道神社庁を通じて送ることが出来ました。波多瀬委員の発案により松阪市にて増田会長も同席戴き、福祉団体の方を招いての勉強会を開催。これを発端に三重県神道青年会の一大事業として、

チャリティバザーが実施されました。一口に福祉といっても範囲が広く、大変難しい事ではありますが、神道人として世の為、人の為に奉仕する心を持って、時代に即応した活動を行っていかなくてはいけません。福祉活動についてはこれからも機会を作り勉強会等を行い、窓口を広くしてゆけばと思います。

任期中には、神宮式年御遷宮・

中央研修委員会



中央研修委員長
伊藤智

第六十一回神宮式年御遷宮直後の神青協中央研修会として、その名称も「神宮研修会」とし、三重神青が全国の青年神職有志を神都伊勢に迎え入れ、原点へ戻る研修会を目ざすべく中央研修委員会が特別に設けられ、はからずも委員長に就任致しました。

その構成員も、担当副会長にパウー全開関西人あの村尾副会長を

三重県にて開催の神青協神宮研修会と大きな行事がございましたが神青会員として参加し、非常に有意義な貴重な体験をさせて頂きました。特に外宮「遷御の儀」に御奉仕させて頂けた事は、誠に有り難く幸福を痛感致しました。

今後の会員諸兄の御理解と御協力をお願い致し、皆様方の御健勝を心よりお祈り申し上げます。

頂き、神戸・東京と奉職し故郷に錦を飾った経験豊富な重鎮太郎館理事、若手神職の中でもひとときわその実務能力が光る田中理事等と、浅学非力を承知の委員長でさえひよっとして大成功するのではと思う程のメンバーに恵まれ、満を持して研修会の準備に取りかかるはずでありましたが、神青協中央執行部及び事務局、五県協議会との意思の食い違いもあり、最初からつまづいてしまいました。

それでも何とか諸問題をクリアしつつ、無事神宮研修会が実行成功しましたことは、会員皆様の深いご理解と努力の賜物とあらためて感謝致します。

が、果たして三重神青会として

満足のゆく納得した研修会であったか考える時、極めて不本意であったといわざるをえません。これは三重神青の意見をまとめ関係諸団体との折衝にあたる研修委員長の責任であると猛省するところです。私としても当初の溢れでるアイデアみなぎるヤル気が、全国・東海・三重との間で取り交わされる意見交換の繰り返し、もどかしさと歯がゆさで、最後まで持続せず、途中で萎えてしまったのも事実です。最終的には自分が置かれている立場や責任分担すら見失ってしまったことは、悔いが残るところです。

何ともさえない話ばかりで恐縮

御遷宮特別委員会



御遷宮特別委員長
種村睦

御遷宮特別委員会は、第六十一回神宮式年遷宮に向け、前期（第十五代山本行恭会長）より活動をはじめ、二期四年間にわたり事業

ですが、これを単なる愚痴話に終わらせず、会員皆様から多数いただいた反省改善の意見を取りまとめ、今後担当するであろう後輩達の為に建設的な意見として残し、次回にはよりよき神宮研修会としてもらいたい。そのひとつの問題提起にはなったのではと思います。私たち委員会の仕事は、ある意味ではむしろ時間を越え、これから始まるのかもしれない。

他の委員会と違い一年足らずの活動期間であり、十分な働きも出来ませんでした。担当された理事委員の方々の心強いサポートにより、まがりなりにもやり終えたことに深く感謝致します。

を進めてまいりました。

二十年（式年）に一度ということもあり、経験者もなく、いかに事業を展開し啓蒙をしていくか、そしてどう次回へ伝えるか等の課題がありました。しかし、諸先輩方よりの助言、神宮よりの参考意見をいただき活動してまいりました。

御遷宮の奉仕は、三重神青としてこの四年間ばかりではなく、八年前の内宮「みひしろぎ」の奉曳

にも参加し、七里の渡しより桑名の春日神社までの奉曳、夜間の警備、伊勢までの広報など、多数の会員の奉仕により協力してきました。

今期は、御年を迎えた事業として、遷宮キャラクター「イセコッコ」の絵馬を謹製、「タイムカプセル祈願絵馬」と命名し、東海五県の神青会の協賛をいただき、七千五百体を全国に頒布。二十年後（第六十二回式年遷宮）の自分、家族、友だちに夢を託して祈願を書き込んでいただき、青少年への啓蒙推進と各神社氏子への神道教化をはかりました。

また、平成五年八月には、お白石持ち行事に奉仕し、御敷地に入り、檜の香漂う御正宮を目の当たりにして感動を覚えました。

愈々秋には遷御の儀を迎え、増田会長が内宮を奉拝、三重神青会も神宮式年遷宮事務局接伴部に配属され、全国からの奉拝者の奉拝席までの誘導・案内の任にあたり、また奉仕者全員が遷御の儀奉拝の機会に恵まれ、浄閣の中、松明の灯のみに映し出される遷宮絵巻に一同言葉を使い、感無量でした。一方、平成六年九月には、この

体験ばかりではなく、前回（第六十回）を経験している神青会の歴代会長さまをお招きし、当時の苦労話から、今後いかにして次代に伝えていくか、また三重神青はどう活動をなすべきか、どう在るべきかなど、様々なご意見を拝聴して懇親を深め、有意義な研修をなし、次代に伝えるべく意見をまとめ、資料として残しました。

このような事業を終え、御遷宮特別委員会は今期にて解散いたしますが、次回の御遷宮に向けて、「いかに啓蒙を進めていくか」という大きな課題をおくり、ご協力いただきました会員諸兄、先輩、またご協賛いただきました団体、業者、その他の皆様にご心より深く感謝申し上げます。



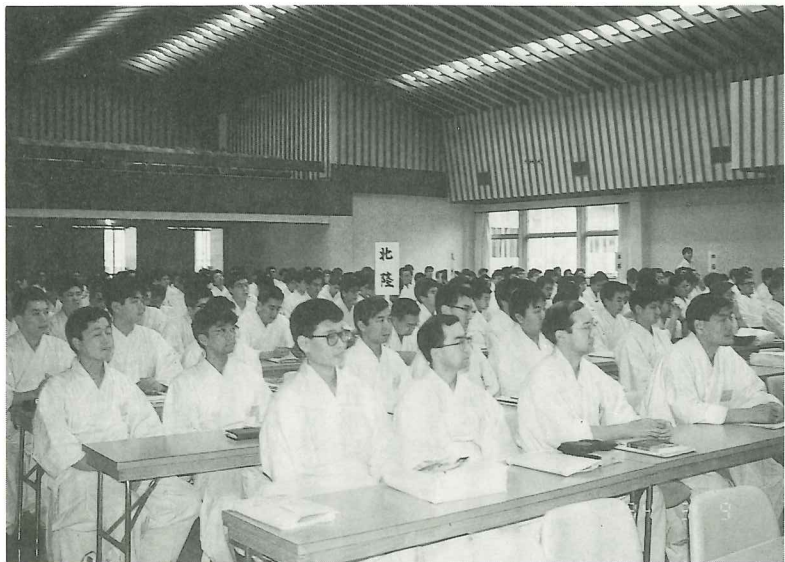
伊勢で神宮研修会

神青協
3月8・9日

『日本の心を次代へ——
神職の原点を見つめ、次なる御遷宮へ決意新たに——』をテーマに

青年神職300人が白衣白袴で参加

『日本の心を次代へ——神職の原点を見つめ、次なる御遷宮へ決意新たに——』をテーマに神道青年全国協議会（西高辻信良会長）の神宮研修会が、去る平成六年三月八・九日の両日、伊勢市の神宮会館において開催され、全国の青年神職約三百人が参加した。今回は参加者全員が白衣白袴を着用、神職としての原点を見つめ直しながら先の第六十一回神宮式年遷宮を振り返り、次なる御遷宮に向け新たな出発を伊勢の地で誓い合った。



神宮研修会には全員が白衣白袴で参加した

神青協では毎年この時期に「中央研修会」をおこなっており、十年毎には伊勢の地での開催が慣例となっており。今回は第六十一回式年遷宮を振り返り、二十年後に向けての奉賛活動や研修のあり方を伊勢の地で見つめ直そうと「神宮研修会」と名称を変えて開催された。研修会の期間中、参加者は全員白衣白袴を着用した。

八日午後一時、神宮会館講堂での開講式では、西高辻会長が「この研修会は、昨年の御遷宮奉仕者の生の声を聞き、次回に向けての第一歩を踏み出すことと、我々神職の故郷である伊勢の地で白衣白袴を着けておこなうことで見失った自分たちの原点をもう一度見つめ直すことにある」と式辞を述べ、

また、実行委員会代表の増田秀樹三重県神道青年会会長も挨拶した。この後、皇學館大學理事長櫻井勝之進氏を講師に迎え、「天皇と神宮」と題しての基調講演を拝聴。

櫻井講師は、現在の制度下における神宮、皇室の扱われ方は「御鎮座以来の異例」としたうえで、「神宮は皇室の固有財産として宮内庁が管理すべきではないか。また天皇は本来は憲法上の資格を持って神宮参拝されるのが本義で国事行為の中に取り入れられるべき。遷宮、御神宝も古来の歴史に鑑みておこなわれるようにしてもらいたい」と神宮制度の是正と正常化を求めた。

続いて、「御神宝装束を伝える」「神宮と共にいきるまち」「神宮建築を守る」「御遷宮の広報活動」「御遷宮と奉祝行事」「神宮の祭祀と外宮神域」の六つの班に分かれ、各コース、会場で分科会研修がおこなわれた。

この日は、朝からあいにくの風雨のため、コース変更を余儀なくされた班もあったが、参加者はずぶ濡れになりながらも遷宮奉仕を通した苦労話を通し、次回の遷宮に向け研鑽に励んだ。

六班に分かれて分科会研修

第一分科会

御神宝装束を伝える

講師||神宮式年遷宮造営庁

神宝装束部技師・采野武朗氏

第一分科会では、倭姫宮参拝のあと神宮徴古館、神宮美術館を見学。御神宝類の製作にあたっての

苦労話や技術面などの次代への継承を考えた。

采野講師は「御神宝の材料には鴝の羽根を使ったものなどがあり、材料確保が難しくなってきたり、技術者の子孫が既に継承しているため人材的には心配はないようだ。長い時間をかけてその時代の最高のものをつくるためには、手先でなく心を受け継いでいくことが大事である」と結ばれた。

第二分科会

神宮と共にいきるまち

講師||お白石持ち奉獻団本

部・安藤明氏

第二分科会は、祭主職舎、おかげ横丁・おかげ座・おほらい町を見学。神宮のお膝元としての御遷宮との関わりと、神宮の庶民文化についてを考えた。

安藤講師からは「一日神領民が制度化し、全国からの参加者は増加しているが、地元・伊勢からの

第三分科会

神宮建築を守る

講師||神宮司庁営林部長・

木村政生氏、宇治工
作所技術員・宮間
熊男氏

第三分科会は、宇治工作所、祭



六つの班に分かれて行われた分科会研修

とし、神宮林復活に関しては土壌作りを一番の重要点に上げていた。

第四分科会

御遷宮の広報活動

講師||雑誌『伊勢志摩』編

集長・乾淳子氏、シ
ナリオライター・植
田尚宏氏、神宮司庁
嘱託・ローズマリー・
ベルナルル氏

第四分科会は、乾氏は活字、植田氏は映像、ベルナルル氏は外国報道とそれぞれのメディア媒体で今回の御遷宮がどのように報道されたのかを探った。

乾氏は「いかにして尊厳を失わずに易しい文章表現で紹介するかを心がけた。今後は子供たち向けに視点を変えたアピールも考える必要がある」。植田氏は「幅広い年代の人に理解を求めるとともに、もっとテレビ媒体を使って繰り返し放送し続ける必要がある」と、今後はよりたくさんの人への啓発をうながすことの重要性を示唆された。

第五分科会 御遷宮と奉祝行事

講師―神宮司庁雅楽課長・森口雄吉氏

第五分科会では、森口氏がビデオなどを利用して奉祝行事と舞楽について話をすすめ、「継承者があるものになるまで最低七年はかかる」と、後継者育成の視点ですすでに準備を始めなければならないなど、諸問題に触れられた。

第六分科会

神宮の祭祀と外宮神域

講師―神宮司庁儀式課長・酒徳莞爾氏

第六分科会は、神宮の祭祀と常典御饗を奉拝する予定だったが、天候不順のため中止。忌火屋殿のみの見学となった。参集殿でおこなわれた講義では、今後も齋戒を重んじ、祭祀令に則った神宮祭祀の厳修が大切であることを話された。

今後の問題点について研修

て触れた後、今回の遷宮準備期間に生じた問題点として、①公的性格を持った御遷宮をおこなう

禊や古殿地の清掃奉仕も実施

翌九日の午前六時、降り続く雨の中、五十鈴川での禊は予定通りおこなわれ、参加者は揮・鉢巻き姿で神宮会館前に集合・整列、駆け足で五十鈴川へと向かった。

先ずは、増田秀樹三重県神道青年会会長の道彦により、振魂、次に鳥船、雄健、雄詰、気吹の順で入水前の動作をおこない、続いて全員が「エイイッ」の気合いと共に

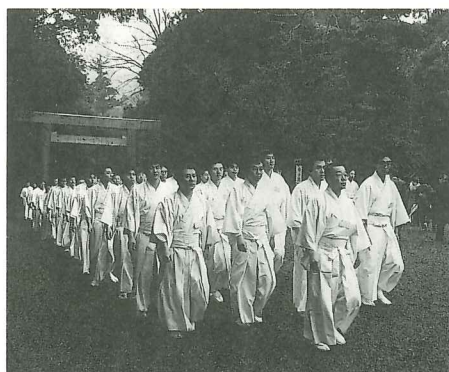
に凍りつくような五十鈴川の流れて心身を清めた。朝食の後、神宮会館講堂において、宮内庁掌典職祭事課長の鎌田純一氏により「式年遷宮の根底」と題しての講演がおこなわれた。

風雨のために夕食後に予定されていた神宮の夜間参拝が中止され、午後七時からは神宮会館講堂において特別講義がおこなわれ、「御遷宮の総括」と題して神宮司庁総務課長・和田年弥氏より講話を賜わった。

鎌田氏は、陛下がいかにか祭祀を御熱心に執行あそばされているかについて触れながら「式年遷宮は仏教、儒教など大陸文化の導入によってつくった国家体制に不満を持った天武天皇が神宮を中心にした国家体制設立のために設けた」と説かれ、そして「神宮の創建は天照大神の御意志によるものであることは記・紀神話に記されている。その意志を歴代天皇は受け継いでおられる。憲法では謳われていないが、今も昔も日本の国は陛下が統治されている。神職の原点は伊勢の精神にこだわることだ」



「御遷宮の総括」と題する和田年弥氏の講演



小雨の中、全員が内宮を参拝

増田会長の道彦による鳥船行事



内宮古殿地・新殿での清掃奉仕



と結ばれた。

この後、参加者全員は整列して内宮及び荒祭宮を参拝。引き続き内宮古殿地、新殿にてそれぞれ清掃奉仕をおこなった。小雨がぱらつく中ではあったが、おもに杉の枯れ枝などを回収、慎んで御奉仕申し上げた。

すべての研修日程を終え、閉講式では、神社本庁茂木貞純研修室長が「研修を通して雨が降り続い

神宮研修会を終えて――

全国からの同志三百人が神都伊勢に集い、『日本の心を次代へ』をテーマに開催された神宮研修会。

神職としての神明奉仕の原点を見つめ、次なる御遷宮の奉賛・啓蒙活動の中核としての使命を担い、神宮への奉仕の誠を捧げるための決意表明であり、新たな結束を誓う研修会となった。

今回の神青協中央研修会は、十年毎の伊勢での研修会の在り方を根本的に見直し、我々青年神職が神明奉仕の原点を探り、自己を律し、体感、奉仕の精神を考え見直すべく、神青協神宮研修会として中央・東海地区・三重県神道青年

会の三者主管で実行委員会を組織して開催されたものであった。

しかし、運営上取り組み難しい問題も多く、反省点もあった。今回の研修会には、今回の反省点を充分検討のうえ話し合いをもち、神青協と念密なる打ち合わせのもと、神宮神青と三重神青が若い力を発揮し、いっそう有意義な神宮研修会として開催されることを切に念願致します。

実行委員をはじめ、ご協力いただいた神宮神青、三重神青の会員の皆さまに、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

凍りつくような水の中、禊を実施



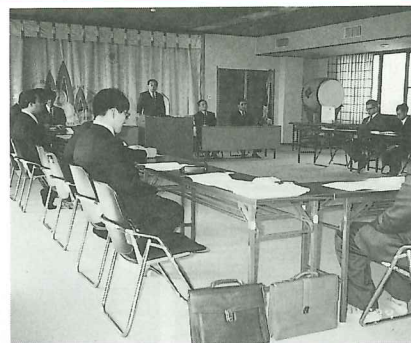
神職の原点について熱弁を奮う鎌田純一氏



平成六年度 事業報告

平成五年度定例総会開催

―活動方針・事業計画等を慎重に審議―



事業計画を審議する役員等
(於・神社庁研修講堂)

べられ、この後、奥出副会長を議長に選出し議事へと移った。

先ず、事務局より、平成五年度会務報告、同会計決算、会計監査報告があり、それぞれ承認された。

一方、平成六年度活動方針並びに事業計画案、同会計予算案の審議が慎重になされ、中でも、本年度の新しい事業であるチャリティバザー開催については、今日の社会福祉に対する会員相互の理解と認識を深めるべく、神青挙げて積極的に協力していくことが決定され、さらに、各委員会提出のそれぞれの事業案も承認され、定例総会は滞りなく終了した。

続いて、高岡神社禰宜、神社本庁教誨師である喜多川忠之先生を講師に迎え、「神職が考える社会福祉」をテーマに講話を拝聴し、福祉への認識を深めた。

公 告

会則の変更
平成六年四月二十六日の役員会にて、細則第五条左記の通り変更することが承認されました。「選考委員会は現任の会長、ブロック理事を以て構成する。」

新入会員歓迎 ボウリング大会

今年新たに神道青年会に入会した新会員を歓迎する恒例の「新入会員歓迎会」が、六月三日開催された。



和やかな親睦会

当日、ボウリング大会が津グランドボウルにて、和やかな雰囲気なか進められ、ゲーム終了後は会場を神社庁に移し、ボウリングの成績発表・表彰、ゲームなど楽しい懇親会となった。

会 務 日 誌

- ◎平成六年 四月十一日 神青協創立45周年記念式典 4名出席 於・明治記念館 十二日 第46回神青協定例総会 4名出席 於・神社本庁 三重県神社総代会定例総会 会長出席・14名助成奉仕 於・神宮会館 十四日 平成五年度定例総会 十八日 東海五県連絡協議会及び神宮研修会反省会 5名出席 於・サンピア岐阜 二十六日 第一回役員会 17名出席 於・神社庁 二十九日 敢国神社崇敬者会館竣工式典 7名助成奉仕 於・敢国神社 五月十九日 第二回役員会 15名出席 於・神社庁 二十一日

第19回お宮の子供会

7月27～28日／高岡神社にて



手作りのカレーライスを食べる子供たち

第十九回を迎えた毎年恒例の「お宮の子供会」は、七月二十七日・二十八日の両日にわたり、一志郡高野の高岡神社(喜多川範夫宮司)において開催された。

今夏は、異常気象による空梅雨の猛暑のなか、県内各地より二十五名の元気な子供たちが参加、増

続いて、担当の会員らとともにゲームをしたり、菓箱作りに挑戦したりと楽しいひとときを過ごし自分たちで作ったカレーライスで夕食をとった後、庭燎の集いを行った。

今回は、特に地元の子供たちとの触れ合いを目的とし、キャンプファイヤーに火が

田会長以下会員の奉仕により、賑やかに諸行事が繰り広げられた。

神社に集合した子供たちは、先ず高岡神社に正式参拝、代表の児童が玉串を捧げ、神妙な面持ちで拝礼。各自が自己紹介の後、同神社喜多川忠之禰宜さまより講話があり、興味深げに聞き入っていた。

連帯感もあり、なかなか寝つけないようであった。

翌日は、ベビースターラーメンの工場を見学。子供以上に喜んだのは会員であった。

この後、子供たちは、お父さん、お母さんへの手紙を書き、二日間 の全日程を無事終了した。

緑豊かな自然のもと

家族会開催



夏休みの最後を満喫した家族会

恒例となった家族会が、八月三十日、一志郡美杉村の魚九アネックス内「ファイアーバレー」を会場として、和やかな歓談のもとバイキングの昼食、プールでのゲーム、魚九自慢の大浴場にと、各自思い思いに楽しい一日を過ごした。今回の家族会は、緑豊かな美杉の山々に安堵を覚え、普段の神青役員会や諸行事では伺えない、会員の家族間の交流を中心としたもので、お互いに「神職」という職の家族であることの連帯感を分かち合うことのできた、実に充実した有意義な家族会となった。

- 三重県氏子青年会定例総会 会長出席 於・神社庁 二十六日 福祉特別委員会 7名出席 於・神社庁 三十日 福祉特別委員会 8名出席 於・神社庁 六月三日 第三回役員会 14名出席 於・神社庁 新入会員歓迎会41名参加 於・津ランドボウル・神社庁 六日 指定団体合同会議 2名出席 於・神社庁 福祉特別委員会 6名出席 於・三重県護国神社 二十二日 福祉特別委員会 6名出席 於・神社庁 七月九日 第四回役員会 15名出席 於・高岡神社 十八日 東海五県連絡協議会 2名出席 於・長野県神社庁 二十七・二十八日 第19回お宮の子供会 於・高岡神社 八月九日

「次期御遷宮を考える」と題し 歴代会長会開催



歴代会長からご意見を拝聴

九月十三日、三重県護国神社において、県神青会の「歴代会長会」が開催された。

この「歴代会長会」は、第六十一回神宮式年遷宮も無事に終わり、次期御遷宮に向け、我々青年神職が今後どう活動していくべきか、今後の神青会はどうあるべきかを、また将来起こりうる問題点などを話し合おうとの主旨のもと、御遷宮特別委員会が企画して開催されたもの。
当日は、公私御多忙のなか、岡

野俊文彦氏（第六代会長）、神田信忠氏（第七代）、喜多川忠之氏（第八代）、中野幸彦氏（第九代）、石上紀夫氏（第十代）、富永主税氏（第十二代）、村田正和氏（第十四代）に御出席を賜り、会員、OB等多数が参加した。

正式参拝の後、早速研修に入り、神宮司庁総務課長の和田年弥氏を講師に、先の式年遷宮を陣頭指揮された体験から、準備段階から生じた問題点にも触れつつ、今後改善していかなければならない点を具体的にのお話をされ、一同真剣に耳を傾けた。

- 福祉特別委員会 4名出席
- 於・三重県護国神社
- 二十二日
- 第五回役員会 11名出席
- 於・三重県護国神社
- 三十日 家族会
- 於・魚九ファイアバレイ
- 三十一日
- 神青協夏期セミナー
- 1名出席 於・国学院大学
- 九月六日
- チャリティバザー 9名奉仕
- 於・江島若宮八幡神社
- 七、八日
- 東海五県連絡協議会教化研修会 14名参加 於・長野市内
- 十三日
- 次期御遷宮を考える会
- 歴代会長七・会員18名参加
- 於・三重県護国神社
- 二十日
- 県敬婦人連合総会助成奉仕 14名奉仕 於・神宮会館
- 第六回役員会
- 15名出席 於・神宮会館
- 二十三、二十四日
- 千年の森シンポジウム助成奉仕 5名奉仕 於・皇學館大学
- 十月二十四日
- 全国神社総代会大会助成奉

東海五県神道青年連絡協議会 及び教化研修会

9月7～8日
長野市にて



三年連続優勝の三重神青

去る九月七日、八日の両日、長野市にて「東海五県神道青年連絡協議会及び教化研修会」が

開催され、本県からは増田会長以下十四名が参加した。研修会では、オリンピック・ボブスレーのコーチ・鷲澤幸一先生が五輪での体験、長野五輪誘致への苦労話などをお話され、特に五輪成功の三大要素は、天候・地元選手の話躍・ボランティアであるという点には一同興味深く拝聴した。

- 翌日の親睦行事であるボウリング大会には、団体・個人とも三年連続優勝の栄冠に輝いた。

福祉事業 チャリティバザー開催 県内6会場で約5,000点を完売



大盛況となったチャリティバザー

本年度の福祉活動は会長諮問機関のなかに位置づけ、チャリティバザーを行うこととなった。

本年度の福祉活動は会長諮問機関のなかに位置づけ、チャリティバザーを行うこととなった。

初めてを試みて不安や戸惑いもあったが、神社関係者のお力添えと大勢の方々の御協力を得て、昨年九月五日より今年三月迄の六ヶ月間に及ぶ長期の活動は大盛況のうちを終えることができた。

県下でのチャリティバザーは難しいといわれていたが、我々には必ず出来るとの信念と、失敗は許されない事を常に念頭に置き、実行力と情熱を持って役員一丸とな

価格設定には大変苦慮し、高ければ高いで売れない、安ければ善意の品を提供して下さった方々に失礼に当たるのではないかと色々と思いつつ、値付作業を進め、販売に望んだのであった。

収益金については、会場となった鈴鹿市・三重郡・津市・上野市の福祉施設へ必要な備品を送って戴くよう三重県社会福祉協議会を

タイムカプセル祈願絵馬 優秀事業賞受賞



御遷宮にちなんでの記念事業として、三重県神道青年会の発案により、東海五見神道青年会で承認された

- 通じてお願いをし、神青会の総会においても贈呈式を行いたいと思
- っている。
- 最後に、御協力を戴きました皆様方に紙面を借りて厚く御礼申し上げますとともに、福祉への一層の御理解を御願いたします。
- 仕 15名奉仕
- 於・伊勢市観光文化会館
- 二十四、二十五日
- チャリティバザー
- 11名奉仕 於・菅原神社
- 十一月九日 第七回役員会
- 12名出席 於・三重県神社庁
- 十二月七日
- 忘年会 16名参加
- 八日
- 金井神社大麻頒布促進運動 9名奉仕
- ◎平成七年
- 一月二十五日 第八回役員会
- 15名出席 於・猿田彦神社
- 二月二十一日チャリティバザー
- 第九回役員会 於・椿大神社
- 三月二日 チャリティバザー
- 於・結城神社
- 神宮神青との合同研修会
- 於・神宮会館
- 七、八日
- 神青協・阪神大震災被災神社復旧作業奉仕
- 会長以下会員23名参加
- 於・若宮八幡神社(神戸市)
- 十三日 第十回役員会
- 於・三重県神社庁
- 二十五日 氏青・神青合同研修会
- 於・菅原神社他

会員投稿

終戦五十周年の節目にあたりて

大村神社宮司 金山 山修

終戦五十周年を迎え、新年早々各新聞・テレビを始めマスコミで盛んにその特集を始めています。その内容は主に先の大東亜戦争がアジアの国々に多大の被害を与えた侵略戦争であり、五十周年のこの機会に、そのことを確認・決定づけようとしている意図が伺えます。国会においても、謝罪決議・

りであります。戦中、地元の人々に見送られ、氏神様に参拝・出征せられた御英霊の尊き御心を偲ぶ度にその無念さは募るばかりであります。戦争体験の無い私ですら当時の誰もが抱いていた大義名分を、今でもひしひしと感ずることができます。

不戦決議が取り上げられておりません。かかる決議が行われたとするならば、自存自衛の為やむなく開戦させられた史実を否定し、白人勢力をアジアより追放した戦いを否定するものであり、開戦・終戦の詔書を否定するものであります。また不戦決議は自衛権の放棄であり、独立国家の否定であります。この国家の重要問題が政治的駆け引きで押し進められる危険さを感じずる昨今であります。

今から五百年前、コロンブスの新大陸接触より、白人帝国主義の世界植民地化が始まり、ついにはその大部分を植民地制覇しました。歴史学者トインビーはそのことを「羊の毛を刈る如く世界を制覇」と述べているようであります。

毎年、各神社・各地域に於いて戦没者の慰霊祭を執り行っている私達にとっても、また良識ある国民にとっても何ともはがゆいばかりであり、戦中、地元の人々に見送られ、氏神様に参拝・出征せられた御英霊の尊き御心を偲ぶ度にその無念さは募るばかりであります。戦争体験の無い私ですら当時の誰もが抱いていた大義名分を、今でもひしひしと感ずることができます。

そんな中、白人帝国主義に真っ向から挑み、最初に勝利したのが日露戦争であります。既に植民地化されたアジア等の諸国は、民族の独立の希望の光りをこの勝利に感じたのであります。アジア民族の目覚めであります。

次の大東亜戦争しかり、当時の世界列国の経済封鎖等、幾多の戦争挑発を受ける中、自存自衛の大

戦として、又アジア・アフリカ植民地解放の聖戦として始まりました。遂に日本の敗戦となりまして、目的の一つであるアジア・アフリカの国々の独立の大きなきっかけとなったことは間違いない事実です。

終戦五十周年を節目ある年にする為に、何とんでも今論議されている謝罪決議・不戦決議は阻止しなくてはなりません。昨年暮れより全国十二の県議会で追悼感謝決議が可決し、更にこうした動きは、各市町村にも波及しつつあります。三重県議会・各市町村議会でも速やかに協議・可決されるよう願ってやみません。私達にできる全てのことを成すべき時であると思えます。

私達はこれからも護国の御英霊の御祭を行い続けます。遺族の方方ばかりでなく、地域全ての人々が大戦の真実を知識としてのみでなく、自らの問題・生き方として、祖国を愛する心を広めていく努力をしなくてはなりません。いくら経済大国となりましても、国を愛する心・国を守る心を失った時点から既に国の崩壊は始まっていると思えます。

表紙写真説明

みみつね
耳常神社

宮司 増田秀樹

三重郡菰野町大字小島鎮座。延喜式内社で御祭神は応神天皇ほか相殿に五柱。創祀年代は不詳。現在の本殿は大正九年建立で八幡造り。戦国時代に織田の兵火を避けるため八幡社と称し、明治維新まで小島八幡社とも呼ばれた。明治に入り村社に列格、同四十一年に村内諸社を合祀、大正四年に県から神饌幣帛料供進の指定をうけた。

編集後記

「榊葉」第21号を節目に、表紙を任期中の会長奉務神社並びに神事と改め、委員一同新たな気持ちで編集致しました。ご協力戴きました増田会長はじめ各委員長さん

に厚く御礼申し上げます。

「榊葉」

第21号

平成7年3月31日発行

増田秀樹

編集 総務広報委員会

発行所 津市鳥居町210-2

三重県神社庁内

三重県神道青年会